

令和3年度
北海道博物館
年度計画
(素案)

令和3年3月
北海道博物館

目次

北海道博物館の組織機構と中期目標・計画の所管	4
ガバナンス体制の確立に向けた取り組み	5
1 資料の収集・保存	6
2 展示	8
3 調査研究	10
4 北海道開拓の村の整備	13
5 教育普及事業	14
6 ミュージアムエデュケーター機能の強化	16
7 施設及び周辺環境の整備	17
8 広報	18
9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握	20
10 道民参加の推進	21
11 博物館ネットワーク	22
12 情報発信	24
13 人材育成機能の強化と社会貢献	26
14 研究成果の発信	27
15 アイヌ民族文化研究センターの事業	28
16 4つのビジョン（重点目標）	29

北海道博物館の組織機構と中期目標・計画の所管

北海道博物館は、令和3年度より組織機構を改正し、中期目標・計画で示された15の事業展開と4つのビジョン（重点目標）の実現に向け年度計画を立て、各項目を各グループが分担して取り組む。

館長	副館長	部長	グループ（主幹・主査・係）	所管項目
館長	副館長	総務部長	総括グループ	7 施設及び周辺環境の整備
			企画グループ	4 北海道開拓の村の整備 9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握 10 道民参加の推進 11 博物館ネットワーク 13 人材育成機能の強化と社会貢献
	学芸副館長	学芸部長	博物館基盤グループ	1 資料の収集・保存 2 展示 12 情報発信
			道民サービスグループ	5 教育普及事業 6 ミュージアムエデュケーター機能の強化 8 広報
			研究戦略グループ	3 調査研究 14 研究成果の発信
		研究部長	自然研究グループ	※1～14の学芸職員の専門性に係る活動（資料の収集・整理、調査研究、展示、教育普及など）を分担
			歴史研究グループ	
			生活文化研究グループ	
			博物館研究グループ	
	アイヌ民族文化担当副館長	アイヌ民族文化研究センター長	アイヌ文化研究グループ	15 アイヌ民族文化研究センターの事業 ※1～15の研究職員の専門性に係る活動（資料の収集・整理、調査研究、展示、教育普及など）を分担

ガバナンス体制の確立に向けた取り組み

(1) 博物館内の意思決定体制と意思の共有化

- ア 博物館における最終意思決定機関として運営会議を開催する（原則毎週 1 回）。会議は館長を議長とし、副館長、部長、各グループ主幹、総務部総括グループ総括主査（事務局）を構成メンバーとする。
- イ 各グループ主幹は、運営会議終了後、重要事項を速やかにグループ構成メンバーに連絡し、意思の共有化を図る。
- ウ 各グループ主幹は、簡単な打ち合わせ、もしくはメール等により構成メンバーと相互にコミュニケーションを図り、グループの懸案事項などを恒常的に把握し、必要に応じてグループ会議を開催する。また、懸案事項は、運営会議にて報告する。
- エ 運営会議は、意思決定プロセスの一環として、必要に応じて職員全体を対象とした説明会（職員全体会議）を開催し、職員からの意見の聴取に努める。
- オ 運営会議は、博物館の 1 日の動向を職員全員で把握し、意思を共有化するための朝のミーティングを開催する（開館日毎日）。事務局は、総務部企画グループとし、企画グループ学芸主幹が司会を務める。
- カ 道民サービスグループは、博物館の 1 日の利用者サービスの動向を道民サービスグループ、解説員、指定管理者で把握し、意思を共有化するための朝のミーティングを開催する（開館日毎日）。道民サービスグループ学芸主幹が司会を務める。

(2) 博物館内の目標・業務管理体制

- ア 各グループは、中期目標・計画の実現に向け、年度計画を「重点計画」と「一般計画」に分けて年度ごとに立て、その実現に向け取り組む。
- イ 各グループ主幹は、道庁職員全員を対象に行われている「人事評価記録書」などを活用しながら、職員ごとに業務の目標を設定し、これを管理する。
- ウ 各グループ主査は、分担された業務を管掌し、係級職員へ具体的な指示を出し、責任を持つとともに目標・計画の実現に向け取り組む。また、業務の遂行状況を逐次主幹へ報告する。
- エ 各グループの係級職員は、主査から指示を受けた業務について、責任を持って取り組む。
- オ 各グループの業務は、主幹⇄主査、主査⇄係級職員の直近の上下関係による連携のもと遂行し、主幹⇄係級職員、部長⇄係級職員など、組織体制を無視した業務の指示、業務判断を仰ぐ行為を慎み、組織における目標・業務管理体制の維持に努める。
- カ 館長、副館長、部長は、各グループ主幹の「人事評価記録書」などを活用しながら、主幹のグループ運営を管理する。
- キ 北海道博物館は、「博物館総合評価」を活用しながら、PDCA サイクルにより目標・業務を総合的に管理する。
- ク 研究部、及びアイヌ民族文化研究センターが所管する各研究グループの目標・業務は、各研究グループの主幹がこれを管理し、研究部長・アイヌ民族文化センター長がこれを統括する。

(3) 道庁と博物館との連携

北海道博物館は、それを所管する環境生活部文化局文化振興課を窓口とし、道庁と緊密な連絡体制を構築し、連携を図る。

1 資料の収集・保存（博物館基盤グループ）

重点計画

- 【中期目標・計画／重点④】「樺太記憶継承事業」の一環として、一般社団法人全国樺太連盟より受け入れた樺太関係資料（以下「樺連資料」）約 6,000 点の収集・整理・保管
【(1)ウ】『北海道博物館資料目録』刊行実施計画作成と執筆推進・編集・刊行

一般計画

(1) 資料の収集

- 【ア】北海道博物館資料収集基本方針に基づく収集活動を継続的に実施〔年間資料情報件数見込 60 件程度、年間調査収集件数見込約 25 件程度〕
【イ】収集資料の調査、整理・分類・登録の推進（各研究 G への働きかけ）

(2) 収蔵機能の強化

- 【ア】収蔵資料データベースの適切かつ安全な運用・更新
【イ】災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討
【ウ】収蔵スペースの確保に向けた検討・取組

(3) 資料保存環境の維持

- 【 】捕虫トラップ（展示場と収蔵庫における設置・回収と調査）〔年間 12 回程度〕
【 】収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査〔年間 1 回程度〕
【 】特別展示室と収蔵庫の空気質調査〔年間 3 回程度〕
【 】担当職員による収蔵庫清掃〔年間 12 回程度〕
【 】全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除〔年間 1 回程度〕
【 】新展示ケースなどの「からし」（接着剤等に含まれる有害物質の除去）作業〔都度実施〕
【 】収蔵庫搬入前の資料に対する、殺虫バッグによる二酸化炭素殺虫処理〔年間 12 回程度〕
【 】収蔵庫内巡回（庫内点検、ロガー目視、害虫の除去）〔恒常的実施〕
【 】その他、収蔵環境の環境維持作用・調査（除湿機稼働、隙間のシーリング、地震などの異常時対応）〔都度実施〕
【 】文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）の更新〔8 月頃〕

(4) 収蔵資料の利用への対応

- 【 】資料の貸出への対応〔年間見込 25 件 500 点程度〕
【 】資料の特別観覧への対応〔年間見込 70 件 1,000 点程度〕
【 】資料の模写品等使用への対応（北海道博物館）〔年間見込 120 件 300 点程度〕
【 】資料の模写品等使用への対応（開拓の村）〔年間見込 40 件 150 点程度〕

※「樺太記憶継承事業」：一般社団法人全国樺太連盟から寄贈を受けた樺太関係資料（約 6,000 点）を適切に収蔵・保管するとともに、これらを活用した調査研究および展示活動を推進し、樺太の歴史や文化等を後世に継承していく事業。令和 2～16 年度までの 15 年計画で実施。

資料の収集・保存に関わる会議

- ★「北海道博物館資料審査会」を活用し、館資料の収集、保存、活用について適切に管理 [年間 12 回程度]
- ★「資料収蔵環境管理等に関する連絡会議」を活用し、円滑に資料保存環境を維持 [年間 12 回程度]

令和 3 年度刊行物刊行計画案

(1) 『北海道博物館資料目録』第 3 号の刊行

※刊行実施計画作成後に令和 3 年度刊行の有無を判断

【次年度以降、資料目録刊行を予定している大型コレクション】

- ・ 樺太連盟関係資料
- ・ キーステンレフシン関係資料
- ・ 青山家資料
- ・ ほか

2 展示（博物館基盤グループ）

重点計画

- 【中期目標・計画／重点④】収集した樺連資料の展示に向けた検討
- 【中期目標・計画／重点②】【(2)イ】道民参加型展示の企画・推進
- 【(1)イ】利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成

一般計画

(1) 総合展示室の運営

- 【ア】総合展示室における展示資料の入替え推進 [年間延べ 40 点程度]
- 【ア】クローズアップ展示コーナーの更新推進 [年間 7 件 27 回程度]
- 【ア】アイヌ文化 Q & A（第 2 テーマ）の更新推進 [年間 3 回程度]
- 【ア】総合展示 2 階出口付近の参加型展示の更新 [年間 1 回程度]
- 【ア】第 4 テーマ「今とこれからをつくる」の入替え推進 [年間 3 件程度]
- 【ア】学芸員紹介コーナーの入替え [年間 1 回程度]
- 【イ】次年度総合展示更新実施計画（各テーマの個別資料入替、クローズアップ展示）の作成
- 【イ】総合展示資料目録の作成・更新
- 【ウ】総合展示のメンテナンスと総合展示室の管理 [随時]
- 【ウ】大掃除の実実施計画作成と推進 [年間 1 回]

(2) 企画展示の開催

- 【ア】他機関との連携・協働、巡回展の誘致を視野に入れた次年度以降企画展実施計画の作成
- 【ウ】特別展の開催推進・運営 [年間 1 件程度]
- 【ウ】企画テーマ展の開催推進・運営 [年間 3 件程度]
- 【ウ】アイヌ民族文化研究センターが主催する巡回展の開催推進・運営 [年間 1 件程度]
- 【ウ】企画展示に係る図録・リーフレットの編集・作成・刊行 [年間 5 件程度]
- 【 】特別展示のメンテナンスと特別展示室の管理 [随時]

展示に関わる会議

- ★「北海道博物館展示ワーキングチーム」を活用し、総合展示および企画展示等の事業を円滑に実施 [年間 8 回程度]
- ★企画展実施チームによる会議を活用し、企画展の事業を円滑に管理・実施 [都度招集・開催]

令和3年度企画展等実施計画案

(1) 特別展

第7回特別展「北海道の湿地（仮称）」 7月10日（土）～9月20日（祝・月）
※ラムサール条約制定50年記念

(2) 企画テーマ展

第18回企画テーマ展「アイヌ工芸品展（仮称）」 10月16日（土）～12月12日（日）
※アイヌ民族文化財団巡回展、実行委員会方式で開催
第19回企画テーマ展「アンモナイト展（仮称）」2022年2～4月頃開催予定
※北海道化石会発足50周年記念

(3) 巡回展

アイヌ民族文化研究センター巡回展「アイヌ語地名を歩く（仮称）」5月頃、幕別町で開催予定

(4) 総合展示クローズアップ展示

クローズアップ展示1（第1テーマ）[年間6回]
クローズアップ展示2（第1テーマ）[年間6回]
クローズアップ展示3（第2テーマ）[年間3回]
クローズアップ展示4（第2テーマ）[年間3回]
クローズアップ展示5（第3テーマ）[年間3回]
クローズアップ展示6（第4テーマ）[年間3回]
クローズアップ展示7（第5テーマ）[年間3回]

(5) 道民参加型展示

北海道化石会の協力によるアンモナイトの展示（会場：休憩ラウンジ）
博物館実習生による成果発表展示（会場：休憩ラウンジ）

令和3年度刊行物刊行計画案

- (1) 特別展図録（1件） 7月刊行予定
- (2) 企画テーマ展図録（1件） 10月刊行予定
- (3) 企画テーマ展リーフレット（1件） 2022年2月刊行予定
- (4) 巡回展図録（1件） 5月刊行予定

3 調査研究（研究戦略グループ）

重点計画

- 【中期目標・計画／重点④】「樺太記憶継承事業」（樺連資料を活用した調査研究）の実施推進〔道費による研究〕
- 【エ】北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施推進（サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究・学術交流の推進）〔道費による研究：2課題〕

一般計画

- 【ア】北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施推進〔道費による研究：4課題〕
- 【ア】アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクトの実施推進〔道費による研究：2課題〕
- 【イ】道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施推進〔道費による研究：5課題〕
- 【ア】【ウ】科学研究費による研究の実施推進〔競争的外部資金による研究：13課題＋ α 見込み〕
- 【ア】【ウ】科学研究費以外の競争的外部資金による研究の実施推進〔競争的外部資金による研究：2課題〕
- 【オ】職員の研修会等への派遣推進
- 【オ】研究課題評価の実施〔道費による研究：13課題〕
- 【オ】研究課題報告会の実施〔年間12回〕

※「研究課題報告会」：道費による研究プロジェクトの進捗状況の報告を目的に、成果などについて発表し、研究課題評価に役立てるための報告会。平成27年度より、月1回定期的に継続実施していた「研究報告会」を改変。

調査研究に関わる会議

- ★「北海道博物館調査研究ワーキングチーム」を活用し、調査研究事業を円滑に実施〔年間6回程度〕

令和3年度調査研究課題

(1) 道費による研究

- 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施 [5 課題]
 - ・北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用（継続：平成 30～令和 4 年度）
 - ・野幌森林公園の生物インベントリー調査（第二次）（継続：令和元～5 年度）
 - ・北海道及びサハリン（樺太）の「風景」に関する基礎的研究（継続：令和元～4 年度）
 - ・北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査（継続：令和 2～6 年度）
 - ・モノ、コト、ヒトとをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究（継続：平成 30～令和 4 年度）
- 北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施 [4 課題]
 - ・北方四島の考古・歴史学的総合研究（継続：令和元～4 年度）
 - ・北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究（継続：令和元～5 年度）
 - ・石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ（継続：令和 2～6 年度）
 - ・北海道を中心とした日本列島の昆虫相と減少要因の解明に関する標本・分布データ調査（新規：令和 3 年度）
- アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト [2 課題]
 - ・北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究の実施（継続：令和 2～6 年度）
 - ・アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクトの実施の実施（継続：令和 2～6 年度）
- 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト（北方文化共同研究事業）の実施 [2 課題]
 - ・北海道とサハリン（仮題）（新規：令和 2～6 年度）
 - ※サハリン州郷土博物館（ロシア・サハリン州）との共同研究・学術交流
 - ※令和 3 年度は、協定書を調印、サハリンから研究者を招聘予定（延期の可能性あり）
 - ・寒冷地の自然と適応（継続：平成 30～令和 4 年度）
 - ※ロイヤル・アルバータ博物館（カナダ・アルバータ州）との共同研究・学術交流
 - ※令和 3 年度は、アルバータから研究者を招聘予定（延期の可能性あり）
- 「樺太記憶継承事業」（樺連資料を活用した調査研究）

(2) 外部資金を活用した研究

- 科学研究費による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施 [競争的外部資金による研究：9 課題]
 - ・北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究（基盤 B）（継続：平成 30～令和 3 年度）
 - ・巨大噴火・津波の痕跡を軸とした 17 世紀アイヌ文化と環境に関する学際的研究（基盤 B）（継続：令和元～令和 4 年度）
 - ・北海道地方で特徴的かつ広域的に広がった季節行事の生成と波及に関する研究（基盤 C）（継続：平成 29～令和 3 年度）
 - ・少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発（基盤 C）（継続：平成 30～令和 4 年度）
 - ・アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査（基盤 C）（継続：平成 30～令和 4 年度）
 - ・リモートセンシングおよびGISによるニヴフの植物資源摂取における空間利用の解析（基盤 C）

(継続：令和元～4年度)

- 考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究(若手)(継続：平成30～令和3年度)
- 貝類をモデルとした海洋環境教育プログラムの開発(若手)(継続：平成30～令和4年度)
- 明治期北海道移住者による農家建築の成立・変容にみる母村文化の影響に関する研究(若手)(継続：令和元～令和3年度)

※令和3年度以降の新規課題については、5件申請中。

○科学研究費による研究(当館職員が研究分担者であるもの)の実施[競争的外部資金による研究：4課題]

- 官衙機構の動態からみた古代日本における境域の特質(基盤B)(継続：平成30～令和3年度)
- 古代末期防御的集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築(基盤B)(継続：令和元～令和4年度)
- 自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築(基盤B)(継続：令和元～令和5年度)
- 自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索(挑戦的研究(萌芽))(継続：令和元～令和3年度)

※令和3年度以降の新規課題については、受け入れ予定なし。

○科学研究費以外の競争的外部資金による研究(当館職員が研究代表者であるもの)の実施[競争的外部資金による研究：2課題]

- 「アイヌ語地名資料データベース」の基盤構築—アイヌ語地名研究者・山田秀三による調査資料を軸とした、古地図・現地調査・地理情報のデータベース化(国土地理協会学術研究助成)(継続：令和2年7月31日～令和3年7月30日)
- 吉田初三郎の鳥瞰図に関する研究—北海道旭川市と層雲峡に関連する作品を中心に(戸部真紀財団研究助成)(継続：令和2年10月1日～令和3年9月30日)

※令和3年度以降の新規課題については、笹川科学研究助成へ1件、ポーラ美術振興財団調査研究助成へ1件の計2件申請中。

4 北海道開拓の村の整備（企画グループ）

重点計画

【中期目標・計画／重点①】【ウ】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成 30 年 12 月策定）に関わる北海道開拓の村のあり方の具体的取組の検討

一般計画

- 【ア】北海道開拓の村歴史建造物の補修工事実施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館）[年間 2 件程度]
- 【ア】北海道開拓の村歴史建造物の老朽度調査[年間 2 件程度]
- 【ア】北海道開拓の村歴史建造物のメンテナンス [随時]
- 【ア】開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成（計 52 棟＋インフラ）
- 【イ】開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成（計 52 棟）
- 【イ】スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による総合展示室の多言語解説サービス運用・検証・改善 [6 カ国語、110 コンテンツ]

※補修工事の流れ：補修計画→老朽度調査（耐震診断）→実施設計→補修工事

※平成 30 年度より、予算計上ならびに実施設計、補修工事の発注・施工は建設部に移管

令和 3 年度北海道開拓の村歴史建造物整備実施計画案

- (1) 補修工事
 - ・旧近藤染舗
 - ・旧小樽新聞社
- (2) 老朽度調査
 - ・旧藤原車轎製作所
 - ・旧島歌郵便局

5 教育普及事業（道民サービスグループ）

重点計画

【中期目標・計画／重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる教育普及事業のあり方の具体的取組の検討

一般計画

（1）魅力あるイベントの充実

- 【ア】【イ】【ウ】一般普及行事の実施推進 [年間50回程度]
- 【ア】【イ】総合展示室等で行うイベントの実施推進 [随時]
- 【ア】「ちゃれんがラリー」の実施と検証・改善・拡充 [常時]
- 【ア】【イ】【ウ】次年度普及行事実施計画の作成
- 【エ】「情報デスク」を活用した交流・誘導 [常時]
- 【エ】解説員による総合展示の展示解説 [常時]
- 【エ】解説員等による展示室・はっけん広場等の展示解説活動の今後のあり方の検討

（2）社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実

- 【ア】学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施 [10メニュー]
- 【ア】はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施 [6メニュー]
- 【イ】「ポケット学芸員」による多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充
- 【イ】展示解説器（音声ガイド）を利用した多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充
- 【イ】総合展示解説書「ビジュアル北海道」の検証と、ワークブック、新しい展示解説書の作成検討
- 【イ】総合展示室における子ども向け展示解説の検討
- 【イ】ウェブサイト内「はくぶつかんであそぼう！子どものページ」の内容検討・更新
- 【イ】視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充
- 【イ】在宅型ウェブ教材発信事業「おうちミュージアム」の運用・検証・改善・拡充

（3）はっけん広場の運営

- 【ア】解説員によるはっけん広場の展示解説 [常時]
- 【ア】【イ】「はっけんイベント」の実施 [年間7メニュー]
- 【イ】「はっけんキット」の運用 [41メニュー]
- 【ウ】学校教育用補助教材の貸出と開発の推進

※ちやれがラリー：総合展示室やはっけん広場を回りながら、クイズに答えてスタンプを集める子ども向けイベント。「情報デスク」にて解説員等が対応。

※情報デスク：総合展示室 1F・2F に設置された解説員等の常駐インフォメーションカウンター。

※ポケット学芸員：スマートフォンを利用した展示解説アプリ [現在 6 カ国語、374 コンテンツ]

令和3年度教育普及行事実施計画案

(1) 一般普及行事

- ・自然観察会 (3件3回)
- ・子どもワークショップ (11件11回)
- ・ちやれんがワークショップ (9件9回)
- ・講演会 (外部講師による講演) (5件5回)
- ・ミュージアムカレッジ (当館職員による講義形式の講座) (12件12回)
- ・古文書講座 (1件8回)
- ・アイヌ語講座 (2件5回)
- ・特別イベント (4件5回)
- ・開館50周年記念イベント (3件3回)

(2) 総合展示室、はっけん広場、屋上スカイビューなどで行うイベント

- ・ハイライトツアー [5~9月の毎日、4月および10~3月の土日祝、14:00~15:00]
- ・ハンズオン [一部の祝日・振替休日] ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催未定
- ・ミュージアムトーク [一部の祝日・振替休日] (3件10回程度)
- ・学芸員ハローデスク [祝日・振替休日]
- ・はっけんイベント [年間7メニュー]
- ・屋上スカイビュー特別開放 [一部の祝日・振替休日]

(3) グループレクチャー [団体向け、10メニュー、年間150件7,000人参加見込]

- ・総合展示ダイジェスト
- ・北海道の生き物
- ・北海道の化石
- ・アイヌ文化の世界
- ・北海道の歴史
- ・北海道の暮らし
- ・北海道の産業
- ・博物館・学芸員の仕事
- ・北海道博物館のあらまし
- ・その他 (要相談)

(4) はっけんプログラム [学校団体向け、6メニュー、年間220クラス7,000人参加見込]

- ・ヒグマ
- ・アンモナイト
- ・アイヌ文化
- ・縄文文化の暮らし
- ・昭和の暮らし
- ・はっけんキットを使ってみよう (保育園、幼稚園向け)

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化（道民サービスグループ）

重点計画

【ウ】新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討

一般計画

【ア】文化庁や北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会への職員派遣の調整〔都度実施〕

【ア】博物館職員の教育普及活動向上に必要な館内研修会等の企画の検討

【ア】解説員研修の実施〔都度実施〕

【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員向け「博物館教育プログラム研修会」の実施〔年間1回、8月、対象：学校教員等〕

【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員、及び旅行会社向け下見対応の実施〔年間30件程度〕

【イ】学校団体の博物館利用を促進するための「学校利用ガイド」の編集・刊行〔年1回〕

【イ】学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充

※「博物館教育プログラム研修会」：博物館を活用した学習活動への理解促進のため、道内の小・中学校および高等学校の教職員等を対象として、北海道博物館・北海道開拓の村の展示や教育プログラムについて解説する研修会。平成29年度より継続実施。

令和3年度刊行物刊行計画案

(1) 学校利用ガイド（令和3年版）

7 施設及び周辺環境の整備（総括グループ）

重点計画

【中期目標・計画／重点①】【(3)】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成 30 年 12 月策定）に関わる具体的取組の検討

一般計画

（1）館内施設の整備と活用

【ア】企画展等と連動したオリジナルグッズの開発

【ア】老朽化した設備の補修・取替

【ア】年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に利用できるユニバーサル・ミュージアムをめざすための総合展示室その他館内における施設・設備の改修に向けた検討・取組

【イ】屋上スカイビューの特別開放を実施〔年間 10 回〕

【イ】記念ホールの開放〔常時〕

（2）周辺環境の整備

【ア】JR 北海道、JR 北海道バス、指定管理者等と連携し、特にインバウンドを対象としたアクセス向上に向けた検討・取組

【イ】サインの統一化に向けた検討・取組

【ウ】野外展示の具体化に向けた検討・取組

【 】野幌森林公園内の危険木の処理および老朽化した設備の改修

【 】平成 30 年度の台風被害や令和元年度のヒグマ出没等をふまえ、野幌森林公園の健全性と安全性の確保に向けた検討・取組

（3）野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

施設及び周辺環境の整備に関わる会議

★「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る活用イメージに関する懇談会での議論を踏まえた具体的取組の検討〔令和 2 年 3 月から 3 回程度、主催：環境生活部文化振興課〕

★「北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議」を活用し、管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上〔年間 12 回程度〕

★道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会を活用し、野幌森林公園の保護と利用の促進〔年間 1 回〕

★野幌森林公園林野火災予防消防対策会議を活用し、野幌森林公園の火災を予防〔年間 1 回〕

8 広報（道民サービスグループ）

重点計画

- 【(1)ア】修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組
- 【(1)ア】赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎、改修工事中）のリニューアル事業と連動した北海道博物館のPR

一般計画

（1）広報活動の強化

- 【ア】報道機関等への対応（新聞、雑誌、テレビ、ラジオほか）[掲載・報道見込：年間延べ400件程度]
- 【ア】報道機関等へ戦略的に働きかけていく広報活動の実施
- 【ア】各種広報媒体への学術的な情報や知見の提供（協力、寄稿、出演等）の推進 [年間延べ100件程度]
- 【ア】招待講演（講座・講演会）等への職員派遣に伴う道民と直に接する広報活動の推進
- 【ア】ICTを活用した広報（ウェブサイト、Twitter等による展示、教育普及、その他博物館活動に関する情報の発信）の実施（年間200回程度）
- 【ア】広報誌『森のちやれんがニュース』の編集・発行・配布（年間4回（季刊）刊行）
- 【ア】『行事あんない』の編集・発行・配布（年間2回（前期・後期）刊行）
- 【ア】特別展ポスター、チラシの編集・作成・配布（年間1回）
- 【ア】企画テーマ展ポスター、チラシの編集・作成・配布（年間3回）
- 【ア】特別イベント等のポスター、チラシの編集・作成・配布（年間1回程度）
- 【ア】各種印刷・刊行物の発送・配布（年間12回程度）
- 【ア】海外に向けた情報発信の強化に向けた検討
- 【イ】愛称やロゴマークの積極的活用
- 【イ】愛称およびロゴマークの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちやれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討

（2）他機関との連携による広報活動の強化

- 【 】北海道生涯学習協会と連携した一般普及行事の「道民カレッジ連携講座」への登録申請（年間2回）
- 【 】他機関との連携による広報活動の実施（年間5件程度）

令和3年度印刷物発行計画案

- (1) 広報誌『森のちやれんがニュース』（年間4回（季刊）刊行）
- (2) 『行事あんない』（年間2回（前期・後期）刊行）
- (3) 第6回特別展ポスター、チラシ等（年間1件）
- (4) 第18～19回企画テーマ展ポスター、チラシ等（年間2件）
- (5) 特別イベント等のポスター、チラシ等（年間1回程度）
- (6) 一般普及行事等のチラシ（職員実行、都度判断）

令和3年度各種印刷物配布計画案

- (1) 広報誌『森のちやれんがニュース』（年間4回（季刊）刊行、各回3,500部、配布先：道内903か所、道外359か所、北海道博物館・開拓の村パスユーザー、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、その他）
- (2) 『行事あんない』（年間2回（前期・後期）刊行、各回20,000部、配布先：道内1,080か所、道外660か所、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、その他）
- (3) 第6回特別展ポスター、チラシ（年間1回、ポスター4,000部、チラシ270,000部、配布先：道内、道外、近隣小学校等、その他）
- (4) 第18～19回企画テーマ展ポスター、チラシ（年間2回、ポスター150部、チラシ3,000部、配布先：近隣関係施設・機関、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、その他）
- (5) アイヌ民族文化研究センター巡回展ポスター、チラシ（年間1回、ポスター150部、チラシ3,000部、配布先：近隣関係施設・機関、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、その他）
- (6) 特別イベント等のポスター、チラシ（年1回程度、部数等：都度判断）
- (7) 『北海道博物館学校利用ガイド（令和3年度版）』（年間1回（4月）刊行、3,000部、配布先：道内の学校（小・中・高・特別支援・私立等）2,092か所、下見セット同封200冊、教育プログラム研修会参加者等200冊、旅行会社300冊、その他）
- (8) 『要覧2020』（年間1回（7月）刊行、500部、配布先：北海道内の博物館・美術館・主な図書館250か所、視察対応用50冊、その他）
- (9) 第6回特別展図録（年間1回刊行、1200部、配布先：北海道内の博物館・美術館・主な図書館250か所、視察対応用50冊、その他）
- (10) 『北海道博物館研究紀要』第7号（3月刊行、900部、配布先：道内博物館、道内図書館、道外主要博物館、道外主要図書館、道内外大学図書館、その他）
- (11) 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第7号（3月刊行、900部、配布先：道内博物館、道内図書館、道外主要博物館、道外主要図書館、道内外大学図書館、その他）
- (12) 『北海道博物館資料目録』第3号（3月刊行、900部、配布先：道内博物館、道内図書館、道外主要博物館、道外主要図書館、道内外大学図書館、その他）

令和3年度他機関との連携による広報計画案

- (1) かるちやるnetによる連携事業を活用した広報の実施
- (2) CISEネットワークによる連携事業を活用した広報の実施
- (3) 生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークによる連携事業を活用した広報の実施
- (4) サイエンスパークへの出展を活用した広報の実施
- (5) 教員のための博物館の日 in 札幌への出展を活用した広報の実施

9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握（企画グループ）

重点計画

【イ】 出口調査・追跡調査によるオーディエンス・リサーチ（利用者調査）の実施〔年1回程度〕

一般計画

【ア】 前年度の事業実績の取りまとめの推進

【ア】 「博物館総合評価」における自己評価の実施推進・運営〔事前評価1回、事後評価1回〕

【ア】 『要覧』の編集・刊行〔年1回〕

【イ】 特別展、企画テーマ展、アイヌ文化巡回展期間の来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析

【イ】 利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析（秋期の一定期間実施）

【イ】 解説員活動日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）

【イ】 図書室業務日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）

【イ】 アイヌ文化Q & A（総合展示室第2テーマ）による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）

【イ】 指定管理者日報による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）

【イ】 口頭・電話・メール・手紙等の受理による利用者ニーズ・意見の把握（開館日毎日）

【イ】 「北海道立総合博物館協議会」による調査審議、外部評価、自己評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度年度計画の作成

【ウ】 「北海道立総合博物館協議会」の開催（年間2回）による調査審議と外部評価の実施推進・運営

【ウ】 「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催（年間1回）による調査審議と外部評価の実施推進・運営

令和3年度北海道立総合博物館協議会実施計画案

（1）北海道立総合博物館協議会（年間2回、9月頃および3月頃）

（2）北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会（年間1回、10月頃）

10 道民参加の推進（企画グループ）

重点計画

- 【中期目標・計画／重点②】【ア】【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（各研究 G へのサークル立ち上げへの働きかけ）
- 【中期目標・計画／重点②】【ア】【イ】 小中学生以下の子どもを対象としたジュニアクラブ活動の推進（各研究 G へのサークル立ち上げへの働きかけ）
- 【中期目標・計画／重点②】【ア】 第 3 期中期目標・計画期におけるボランティア活動の導入を含めた総合展示室、はっけん広場、図書室等での利用者対応組織の検討（道民サービス G と連携し、検討ワーキンググループを立ち上げ）
- 【中期目標・計画／重点】【ウ】 北海道博物館の各種活動に協働参画しかつ館長の諮問に応える支援組織（ミュージアム・パートナー：旧開拓記念館のミュージアム・メイト）の整備に向けた検討

一般計画

- 【ア】【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（道民サービス G と連携）
- 【ア】 博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進（博物館基盤 G と連携）
- 【ア】 道民参加型調査研究の推進（研究戦略 G と連携）
- 【ア】 道民参加型展示の推進（博物館基盤 G と連携）
- 【ア】 ウェブサイト内「博物館の活動に参加しよう」の内容検討・更新
- 【イ】 博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営（年間夏期 1 回実施）

令和 3 年度道民参加型活動実施計画案

- (1) 道民参加型学習サークル（道民サービス G と連携）
 - ・ちゃれんが古文書クラブ [年間 12 回]
- (2) 道民参加型調査研究（研究戦略 G と連携）
 - ・道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト「野幌森林公園の生物インベントリ調査（第二次）」への市民参加
 - ・ちゃれんが古文書クラブの活動成果としての古文書翻刻による史料紹介の研究紀要への掲載
- (3) 道民参加型展示（博物館基盤 G と連携）
 - ・アイヌ文化 Q & A（総合展示室第 2 テーマ）における来館者参加型展示
 - ・総合展示 2 階出口付近の来館者参加型展示
 - ・第 4 テーマ「今とこれからをつくる」における道民への原稿執筆依頼と展示
 - ・休憩ラウンジにおけるアンモナイトの展示
 - ・博物館実習生による展示コーナーの設置
 - ・博物館実習生による図書展示コーナーの設置
- (4) 博物館基盤整備に係るボランティア活動（博物館基盤 G と連携）
 - ・図書ボランティアによる図書室の利用者閲覧対応・レファレンス
 - ・図書ボランティアによる蔵書整理と新規・返却図書等の整理・配架

11 博物館ネットワーク（企画グループ）

重点計画

- 【ア】全国博物館大会（11月17～18日開催予定）の事務局館としての庶務
- 【中期目標・計画／重点③】【(2)ア】国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化に向けた検討（道内博物館への誘客促進、今後の連携・協働・役割分担についての協議）（アイヌ民族文化研究センターと連携）

一般計画

（1）各種博物館団体との連携

- 【ア】日本博物館協会との連携・協力、北海道支部の運営
- 【ア】全国歴史民俗系博物館協議会との連携・協力
- 【イ】北海道博物館協会との連携・協力
- 【イ】北海道博物館協会の運営（担当職員が事務局を兼務して執行）
- 【イ】北海道博物館協会学芸職員部会への職員の積極的参画の促進

（2）博物館交流の促進

- 【ア】周辺施設とのネットワーク事業の実施〔年間3件程度〕
- 【ア】外部主催イベントへの参画〔年間3件程度〕
- 【イ】北海道博物館協会と連携した学芸職員対象の研修会の開催検討（学芸職員部会との連携）

- ※「かるちやる net」（文化施設連絡協議会）：札幌市厚別区と江別市の文化施設が集まり、相互の協力・連携を密にするための協議会として平成22（2010）年2月に発足した協議会（参加施設：札幌市青少年科学館、サンピアザ水族館、江別市セラミックアートセンター、江別市郷土資料館、北海道立図書館、北海道立文書館、北海道立埋蔵文化財センター、野幌森林公園自然ふれあい交流館、北海道開拓の村、北海道博物館）。各施設の広報・PR活動や体験イベントなどを共同で開催している。
- ※「CISE ネットワーク」：北海道大学総合博物館を中心に、札幌周辺地域の博物館・科学館・動物園・図書館等の教育施設が連携し、実物科学教育を推進することを目的としてつくられたネットワーク。教育プログラム、教材の開発・活用、イベントの主催、他組織主催イベントへの出展等の活動を実施。当館は平成27年度から正式参画。
- ※「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」：札幌市が、市内にある動物園・水族館などの環境関連施設を生物多様性に関する活動拠点として位置づけ、各施設間での情報共有や連携を進めることを目的として設立したネットワーク。当館は平成27年度から参画。

令和3年度博物館ネットワーク実施計画案

(1) 日本博物館協会との連携

- ・北海道支部長館として協会および支部会員との連絡・協力体制の維持（2018年9月10日現在、北海道支部団体会員38件）
- ・参与会、支部長会、全国館長会議への出席
- ・全国博物館大会への出席と運営
- ・その他、協会への入退会、博物館功労者顕彰、『博物館研究』への寄稿等に関する支部調整

(2) 全国歴史民俗系博物館協議会との連携

- ・北海道ブロック幹事館として協議会およびブロック会員との連絡・協力体制の維持（2018年3月29日現在、北海道ブロック団体会員56件）
- ・幹事館会、年次集会への出席

(3) 北海道博物館協会との連携

- ・北海道の中核的博物館として北海道博物館協会と連携した事業の展開
- ・役員会、北海道博物館大会、ミュージアム・マネジメント研修会、学芸職員部会、北海道青少年科学館連絡協議会、北海道美術館学芸員研究協議会、道央地区博物館等施設連絡協議会の各種事業等への協力、出席

(4) 北海道博物館協会事務局館としての庶務

- ・北海道博物館協会事務局館として役員、各ブロック、会員との連絡体制の維持（2019年7月1日現在、団体会員124件）
- ・役員会（年間3回）、北海道博物館大会（年間1回）、ミュージアム・マネジメント研修会（年間1回）、北海道博物館協会表彰の実施に関する庶務
- ・北海道博物館協会のあり方検討に関する庶務
- ・北海道胆振東部地震による被災資料への対応に関する庶務

令和3年度博物館交流実施計画案

(1) 周辺施設とのネットワーク事業

- ・かるちやる net による連携事業の実施（スタンプラリー、サンピアザ光の広場等を活用したワークショップやパネル展、共通行事チラシの発行・配布など）
- ・CISE ネットワークによる連携事業の実施（CISE サイエンス・フェスティバルなど）
- ・生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークによる連携事業の実施（いきものつながりクイズラリーなど）

(2) 外部主催イベントへの参画

- ・サイエンスパーク（主催：北海道、道総研）への出展
- ・教員のための博物館の日 in 札幌（主催：国立科学博物館等）への出展
- ・地質の日記念展「北海道の地震」（主催：北海道大学総合博物館等）への協力

12 情報発信（博物館基盤グループ）

重点計画

- 【(1)ア】 収蔵資料データベースに登録する情報（デジタルカメラによる写真撮影、ネガフィルムのスキャニング、資料情報内容の入力等）の拡充推進（各研究 G への働きかけ）
- 【(1)ア】 収蔵図書（道内外の博物館展示会図録等を含む）の整理とデータベース登録
- 【(1)ア】 北海道博物館（旧開拓記念館、旧センター含む）刊行物（特別展図録、研究紀要、ニュースレター等）のスキャニングによるアーカイブス化の検討
- 【(1)イ】 収蔵資料データベース、収蔵図書データベース、刊行物アーカイブスの公開のあり方検討

一般計画

（1）情報発信機能の強化

- 【ア】 情報システム（収蔵資料データベース）の保守・管理
- 【ア】【イ】 ウェブサイトの保守・管理と利便性向上のための更新
- 【イ】 SNS（フェイスブックなど）を活用した情報発信のあり方検討
- 【イ】 情報システムを活用した関係機関（道内外博物館、文書館、図書館等）とのネットワーク構築に向けての検討

（2）道民の「知りたい」気持ちへの支援

- 【ア】 収蔵図書の充実 [年度末時蔵書数見込 153,000 冊程度]
- 【ア】 図書ボランティア制度の運用
- 【イ】 図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備 [年間利用者見込 3,500 人程度（うち図書室のみの利用者 35 人程度）]
- 【イ】 企画展示および総合展示の理解を深めるための図書展示コーナーの更新・運営（年間 6 回程度）
- 【ウ】 各機関、個人からの問い合わせなどのレファレンス対応と推進 [年間見込 560 件程度]
- 【ウ】 レファレンスの窓口一元化（専用回線の設置、専任スタッフ・オペレーターの配置、ICT を活用したレファレンスなど）と効率化（よくある問い合わせ Q&A の開設など）による機能強化に向けた検討
- 【ウ】 関係機関（道内外博物館、文書館、図書館など）との連携によるレファレンスの検討

令和3年度図書等受入計画

- (1) 北海道の自然・歴史・文化に関わる図書、博物館刊行物、視聴覚資料の寄贈による収集[年間 2000 冊程度]
- (2) 道民の「知りたい」気持ちに応えた図書の購入[年間 50 冊程度]
- (3) 北海道博物館の研究や利用者からの問い合わせへの回答に必要な図書の購入[年間 150 冊程度]

令和3年度レファレンス等対応見込み

- (1) 写真提供への対応 [年間見込 120 件程度]
- (2) 電話等によるレファレンス [年間見込 420 件程度]
- (3) 展示場等における利用者からのレファレンス [年間 3000 件程度]
- (4) アンケートへの協力、その他 [年間見込 20 件程度]

13 人材育成機能の強化と社会貢献（企画グループ）

重点計画

- 【(3)】当館職員、とりわけ若手学芸職員の博物館に関する知識と技術力、及び研究力を高め、将来の博物館機能の向上に結びつける。また、そのために必要な支援の拡充に努めるための検討。

一般計画

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

- 【ア】博物館実習生の受入れ [年間 1 回 (2 週間)、20 人上限]
- 【ア】見学実習の受入れ [年間見込 7 件 (各 1 日程度)、延べ 100 人程度]
- 【ア】インターンシップの受入れ [年間見込 7 件 (各 1 日程度)、延べ 30 人程度]
- 【イ】高校・大学等のニーズに応じた当館職員の講師としての派遣

(2) 外来研究員の受入

- 【 】外来研究員（外部研究者や大学院生等）の受入に関する検討・取組・制度整備

(3) 当館職員の資質向上

- 【 】文化庁、日本博物館協会、北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施される博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加 [年間見込 10 件、延べ 20 人程度]

(4) 職員の対外貢献

- 【 】招待講演（講座・講演会）等への職員派遣 [年間 60 件程度]
- 【 】各種委員・非常勤講師等 [年間 70 件程度]
- 【 】学術的な協力（指導助言等）、執筆依頼等 [年間 20 件程度]

(5) 外部機関との事業連携

- 【 】他機関等との連携・協力 [年間 22 件程度]
 - ・市民・他団体との連携（年間 10 件程度）
 - ・学会および研究会との交流（年間 2 件程度）
 - ・国・都道府県・市町村等との連携（年間 5 件程度）
 - ・外部団体等の研修への協力（年間 5 件程度）

(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

- 【ア】【ウ】アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総括的に捉え持続可能な共生社会を模索する政策の推進
- 【イ】「北海道総合計画」（平成 28 年度～令和 7 年度）などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・博物館活動を推進

14 研究成果の発信（研究戦略グループ）

重点計画

- 【(2)】道費による研究プロジェクトの研究成果を『研究紀要』やその他成果報告書等の刊行を通じて発信する取り組みをより一層推進するための実施検討。

一般計画

(1) 学術刊行物などの刊行

- 【ア】『北海道博物館研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間1回）
- 【ア】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行
- 【イ】職員の研究成果をわかりやすくまとめた刊行物等（叢書、新書、ブックレット、総合展示専門解説書等）の刊行の検討

(2) 学会への発信

- 【 】学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆推進 [年間 35 件程度]
- 【 】学会、研究会等での発表推進 [年間 20 件程度]
- 【 】道費による研究成果普及のための公開講座の実施検討

研究成果の発信に関わる会議

- ★「北海道博物館学術刊行物編集委員会」：『北海道博物館研究紀要』ならびに『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の定期的な刊行および水準の確保を保証 [『研究紀要』編集委員会：年間 5 回程度、『センター研究紀要』編集委員会：年間 5 回程度]

令和3年度刊行物刊行計画案

- (1) 『北海道博物館研究紀要』第7号（3月刊行）
- (2) 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第7号（3月刊行）

15 アイヌ民族文化研究センターの事業

重点計画

【中期目標・計画／重点③】ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み

一般計画

（１）アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及

【ア】【イ】 アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクトの推進 [道費による研究：2 課題]

【ア】【イ】 道費による研究プロジェクトを活用したアイヌ文化研究の実施

【ア】【イ】 科学研究費など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進

【ア】【イ】【ウ】【エ】 次年度「アイヌ民族文化研究センター事業計画」の作成

【イ】 アイヌ文化に関する資料の収集と整理の推進

【ウ】 アイヌ文化に関する公開資料の作成（諸手続含む）（年間 3 点程度）

【ウ】 アイヌ文化に関する公開資料の作成計画の策定

【エ】 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の投稿原稿執筆の推進

【エ】 アイヌ文化に関する研究成果の普及や道民の学習等に資するためのアイヌ文化紹介小冊子『ポンカンピソシ』（全 1～9 巻）の増刷・配布 [都度実施]

【エ】 広報誌『森のちやれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」などを通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信（年間 4 回（季刊）刊行）

【エ】 北海道立アイヌ民族文化研究センター開所 30 年（2024 年）を機会に実施する事業計画の作成・実施に向けた取組

【エ】 北海道博物館の教育普及事業を活用したアイヌ文化に関する理解促進の取り組み

【エ】 北海道博物館の展示事業を活用したアイヌ文化に関する理解促進の取り組み

【エ】 アイヌ文化巡回展の開催 [年間 1 回]

（２）アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援

【ア】 アイヌ民族文化研究センターの収蔵資料データ、調査データ、研究成果の集約

【ア】 北海道においてこれまでに実施されてきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議、およびデータ提供に向けた体制整備

【ア】 北海道博物館ウェブサイトにおけるアイヌ民族文化研究センターに関する情報発信

【ア】 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の運用

【イ】 市町村やアイヌ文化伝承活動団体などから寄せられるアイヌ文化の学習や伝承活動に関する依頼に対し、専門的見地から助言・支援

16 4つのビジョン（重点目標）

重点計画

- 【中期目標・計画／重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討
→総括 G が所管し、企画 G、道民サービス G などと連携して取り組む
- 【中期目標・計画／重点②】道民参加型の活動の推進
→企画 G（道民参加の推進）が所管し、博物館基盤 G、道民サービス G、研究戦略 G と連携して取り組む。
- 【中期目標・計画／重点③】ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携
→アイヌ民族文化研究センターが所管し、企画 G（博物館ネットワーク）などと連携して取り組む
- 【中期目標・計画／重点④】樺太（サハリン）に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進
→研究戦略 G が所管し、博物館基盤 G、各研究 G などと連携して取り組む。

一般計画

1～15 の各計画を参照のこと